



ホームページ



Instagram

藍サポ通信～明日に向かって～に掲載されている写真は、本人又は保護者の同意を得て掲載しています。

太陽の陽をあびながら元気いっぱい ～子ども達も野菜も～



新年度が始まりましたが、新型コロナウイルスが終息す

ることはなく、くれよんでは現在も感染に気を付けながら自粛した生活を過ごしています。屋外にすることは控

えています。が、事業所の屋上でおやつを食べたり、家庭菜園を育てたりしながら屋外での気分転換を楽しんでいます。今年度の家庭菜園は子ども達から育てたい野菜をアンケートで募り、苗の買い出しからプランターの土作りまで子ども達も参加しながら行いました。野菜の看板やカラス除けグッズも手作りしたんですよ。野菜が実る前から収穫を楽しみにしている子ども達です。また、屋上ではシャボン玉や、大縄跳びにもチャレンジしています。外出が難しい中でも子ども達楽しく遊ぶことができるように活動を考え、工夫して過ごしていこうと思います。

(子ども達が選んだトマトの苗)



活動紹介 (ひらのでのひととき)

前回の手話コースに続き、今回は毎週木曜日に行っている音楽療法のミュージックケアについて紹介させていただきます。

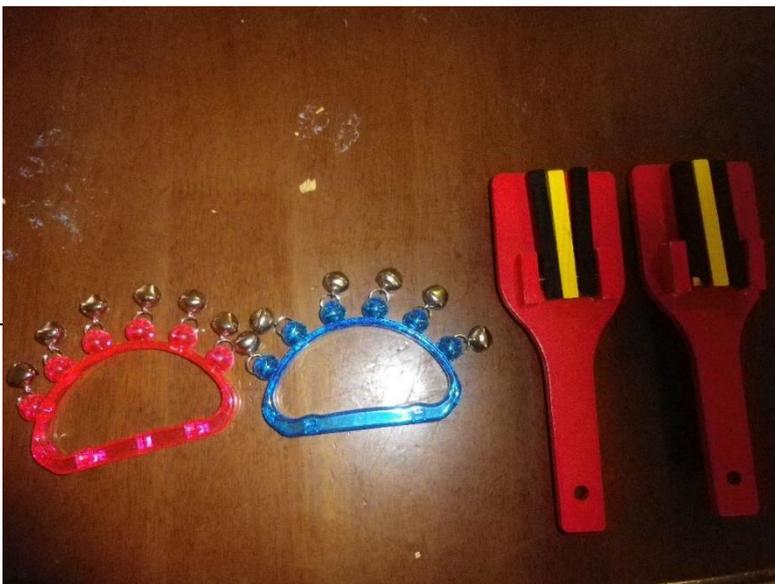
そもそもミュージックケアとは「だれでも、どこでも、いつでも楽しめる音楽療法」ということを掲げています。また、音楽の特性の一部を利用して、その人がその人らしく生きるための援助をしています。ということの意味もあります。音楽を使った活動ということで皆さんの興味、関心も高く、ラジカセから流れる音楽に合わせて鳴子や鈴を鳴らしたり、踊ったりして楽しんでいきます。曲を聴くだけで「次は鳴子!」「あ、この体操や」と覚えている利用者さんもしっかりしゃべります。活動の最後にシャボン玉を行うのですが、



力加減が難しく、初めは優しく「ふう」と言葉に出すところから始め、徐々に吹く練習をしてシャボン玉ができるよ

うになった利用者さんもうしゃべります。うまくで来た時は、笑顔になったり、達成感を感じている様子がみられます。

ミュージックケアを通して純粋に活動を楽しんでもらうことは勿論ですが、それ以外にも利用者さんがリラックスして参加されていたり、優しく話すように



(活動で使う鳴子とすず)

なるなど色々な表現が出来るようになることや、シャボン玉が上手く飛ばせたことがその方にとって成功体験となり、活動以外の場面においても『挑戦してみる』という気持ち芽生え、主体的に行動できる場面が増えていけば良いと思います。これからもミュージックケアで身体を動かし、楽しんでいきたいです。

事業所移転計画

平野南にある生活介護『ひらの』は障がい福祉制度が整備されていない時代に平野区で先駆的に立ち上げられた事業所で、1980年に「障害者の働く場ひらの作業所」として開設されたことが起源となっています。開設以降、障がい福祉制度の変革に伴い1982年に「福祉作業センター」、2001年に「小規模通

所授産施設ひらの作業所」と変容し、2007年

に現在の「ひらの」として生活介護事業を運用するに至っています。

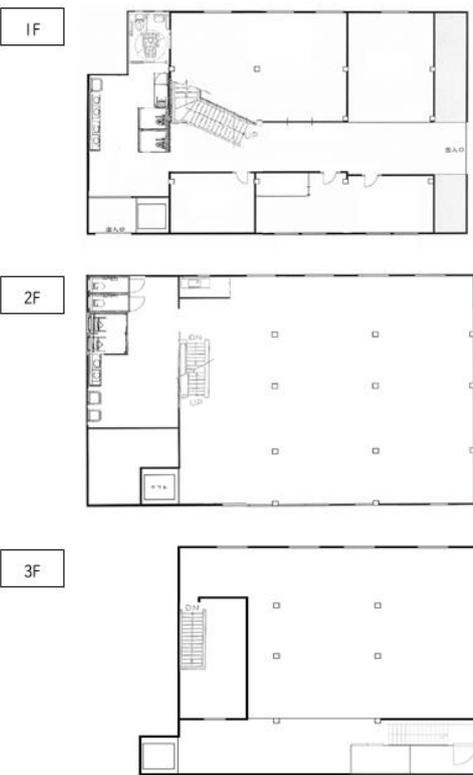
現在の「ひらの」は1990年の不審火による全焼事故の翌年に再建されて以降約30年が経過しており、漏水やエレベーターの不調に加え内装の老朽化が進んでいる状況でありました。また、送迎については交差点付近での利用

者の乗降について危険が伴うとともに交通の妨げにもなっていました。この度、これらの課題を解消するため事業所の移転を計画しており、現在各種手続きを進めています。

移転後には、「第二ひらの」との連携も取りやすくなり、立地の利点を大いに活用し利用者のみなさまへよりよい支援につなげられるよう努めます。

ヘルパー日誌

ヘルパーの仕事は基本、利用者さんと1対1で接する事がほとんどです。ヘルパーそれぞれ性格に違いがあり、仕事のなかでその人なりの個性や持ち味が発揮されることもあります。ただ、性格の違いがあってもヘルパーによって支援の方法が大きく違うと実際に支援を受ける利用者さんにも困ってしまう事があると思います。そのようなことが無



いように定期的に会議を開催し、ヘルパー同士で話し合っ情報共有することを大切にしています。新型コロナウイルスの感染が広がる中、会議は現在も継続して行っているのですが、みんなが集まってしまうという事がなかなか難しくなってきました。利用者さんの気持ちやニーズ、ヘルパーの想いなど書面だけではどうしても伝えきれない事が多く、検討した結果リモート会議を導入しました。初めての試みとあってITに不慣れなスタッフが集まれば当然あれやこれやとやりながらパソコンの設定をすることとなり、画面の向こうにヘルパーの顔が写ると安堵感が漂います。会議を継続することはとても大きな意味があると感じます。新型コロナウイルスの状況が今後どう変化するかはわかりませんが、できる限り工夫しながら今まで以上の支援ができるように努力していきたいと思えます。



移転先平面図

〈感染対策〉

新型コロナウイルスの影響が続く中、各事業所においてもより感染予防の対策に取り組んでいます。消毒については、活動部屋だけではなく、送迎車も1日2回の消毒をおこなっています。送迎中も添乗者は車内でフェイスシールドを装着し、使い捨てエプロンと手袋をつけての介助をおこなっています。また、人と人との距離をできるだけ空けて座れるような配慮をしています。飛沫防止用のパーテーションは送迎の場面だけではなく、食事中にも取り入れました。

利用者、ご家族の皆様にはご迷惑をおかけしていることもあるかと思いますが、法人としては引き続き感染予防に取り組む姿勢です。今後とも協力よろしくお願いします。

す。みなさん集中して取り組んでおられ、納期に間に合うように頑張っています。働いて頂いたお給料の使い道は、兄弟に服をプレゼントされる方、移動支援で外出した時におばあちゃんにお土産を買う方、前から欲しかった本を買う方など様々で、みなさん目標をもって作業に励んでいます。それぞれ目標は違いますが、達成感や充実感に繋がる活動になっています。

〈コーヒ一会編〉

3階フロアで過ごされる利用者さん達の活動に『コーヒ一会』があります。活動の中でやりたいことや、困っていることについてみんなで話し合う時間を作っています。話をする時にはグループを2つに分け、少人数になって進めることで一人一人の意見を確認できるようにしたり、リーダーを決めることで、進行の役割を担って頂いています。



(グラタン作りの様子)

活動紹介

(第二ひらのでのひととき)

〈作業編〉

作業活動では、一般企業からお仕事を頂き、プラスチック

クでできたみかんを仕分けする作業や、ナットの中にパッキンを入れる作業をしています



(出来上がったグラタン)

話し合いを重ねる中で出てきた意見には、「調理実習がしたい」、「おやつ作りがしたい」、「自分達の作ったゲームで1階フロアの利用者さんと交流したい」など様々な要望ができました。出し合った意見を基に5月22日には、感染対策や手指の消毒を徹底して調理実習に取り組みました。協力しながら作ったグラタンはとても美味しかったです。これからもみんなで意見を出し合い、決定ができる事を大切にしながら活動を続けたいと思っています。